

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 近畿財務局長

【提出日】 平成27年2月13日

【四半期会計期間】 第41期第3四半期（自 平成26年10月1日 至 平成26年12月31日）

【会社名】 株式会社C D G

【英訳名】 CDG Co.,Ltd.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 大平 孝

【本店の所在の場所】 大阪市北区梅田二丁目2番22号

【電話番号】 (06) 6133-5200 (代表)

【事務連絡者氏名】 管理部長 山川 拓人

【最寄りの連絡場所】 大阪市北区梅田二丁目2番22号

【電話番号】 (06) 6133-5200 (代表)

【事務連絡者氏名】 管理部長 山川 拓人

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所  
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部 【企業情報】

### 第 1 【企業の概況】

#### 1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第40期 第3四半期 連結累計期間	第41期 第3四半期 連結累計期間	第40期
会計期間	自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日	自 平成26年4月1日 至 平成26年12月31日	自 平成25年4月1日 至 平成26年3月31日
売上高 (千円)	7,242,644	8,206,959	10,157,555
経常利益 (千円)	503,916	616,893	735,901
四半期(当期)純利益 (千円)	308,177	390,887	449,667
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	369,735	442,149	496,065
純資産額 (千円)	3,716,676	4,186,613	3,835,357
総資産額 (千円)	5,665,755	6,331,324	6,470,254
1株当たり四半期(当期) 純利益金額 (円)	51.66	66.95	76.99
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額 (円)		66.69	
自己資本比率 (%)	65.6	66.0	59.3

回次	第40期 第3四半期 連結会計期間	第41期 第3四半期 連結会計期間
会計期間	自 平成25年10月1日 至 平成25年12月31日	自 平成26年10月1日 至 平成26年12月31日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	22.44	30.58

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 第40期第3四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。第40期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載しておりません。

#### 2 【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）において営む事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社においても異動はありません。

## 第2 【事業の状況】

### 1 【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

### 2 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等は行われておりません。

### 3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間末日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

#### (1) 経営成績の分析

当第3四半期連結累計期間における我が国経済は、企業収益や雇用情勢の改善を背景に一部で高額消費が堅調に推移する一方で、全体としては消費税率引き上げに伴う個人消費の低迷が長引く等、アベノミクス開始以降の景気の回復基調を維持しながら米国の利上げ時期への思惑や欧州危機の再燃等といった世界経済の不安定要素も相まって不安定な状況で推移しました。

この様な経済環境のもと、当社グループが属するセールスプロモーション市場におきましては、景気の緩やかな回復基調を背景に需要は引き続き堅調に推移しましたが、スマートフォンの普及に伴うSNS等のモバイルコンテンツを活用したセールスプロモーションやPOSデータ、顧客の購買データ等のビックデータを活用したセールスプロモーションなど、セールスプロモーション手法が多様化し、参入企業には変化への対応力と継続的な機能強化が求められる厳しい競争環境となっております。

当社グループでは顧客の営業上の課題に対応するマーケティング会社としてのサービスが提供できるよう、主力のセールスプロモーショングッズの供給に加え、WEB関連、POP分野、イベントなど引き続き基本機能の強化及び拡充に努めました。特に、普及が拡大するスマートフォンを活用したモバイルコンテンツを活用し、既存の店頭におけるプロモーション活動とWEBプロモーション活動を連動させるO2Oビジネスの強化・拡大に取り組みました。例えば、ターゲットとなる消費者と親和性が高いWEBメディアを抽出して、サイト上でのプロモーションを展開することで消費者を実店舗まで誘引し、当社の従来からの強みである店頭でのPOP、景品を使ったキャンペーンを実施するトータルパッケージでの提案により顧客ニーズへの対応力をさらに高める動き等が挙げられます。次に、業界別の顧客の販売状況や取り組みとしましては、当社の主力顧客である自動車業界では、消費税率引き上げの反動で一時的に需要が落ち込んだものの、引き続き旺盛な需要を取り込むべく様々な提案を行いました。また、小売業界では、大手コンビニエンスチェーンと人気アニメとのタイアップキャンペーンを企画・提案し大型案件の受注を獲得しました。さらに、製薬業界では、販促用ギミックといった従来分野において前期に引き続きセールスプロモーションに対する政策変更により販売費が削減され売上は落ち込んでおりますが、調剤薬局の電子薬歴システムを使った患者に服薬を継続させる仕組みを提案するなど、新たな需要を創出しました。

これらの結果、当第3四半期連結累計期間における連結業績は、売上高8,206百万円（前年同期比13.3%増）と増収となりました。また、売上総利益は同業他社との価格競争の激化、原材料価格の高騰や円安による仕入コストの上昇といった粗利率の低下要因がありましたが、大型案件の増加による採算の改善や円安への対応力強化により利益確保に努め増加となりました。さらに、その増収効果が賃上げ、採用コスト増加等の販売費及び一般管理費の増加要因を吸収した結果、営業利益は602百万円（同19.8%増）、経常利益は616百万円（同22.4%増）、四半期純利益は390百万円（同26.8%増）となりました。

なお、当社グループではセールスプロモーションの企画及び販売を行う単一事業分野において営業活動を行っておりますので、セグメント情報の記載は行っておりません。

## (2) 財政状態の分析

### (流動資産)

当第3四半期連結会計期間末における流動資産の残高は5,287百万円(前連結会計年度末5,454百万円)となり、166百万円減少いたしました。主な要因は、受取手形及び売掛金が808百万円増加したこと、配当金の支払いや支払手形及び買掛金の支払い等により現金及び預金が924百万円減少したこと等によるものであります。

### (固定資産)

当第3四半期連結会計期間末における固定資産の残高は1,043百万円(同1,015百万円)となり、27百万円増加いたしました。主な要因は、保有する投資有価証券が株価の値上がり等により79百万円増加したこと、繰延税金資産が44百万円減少したこと等によるものであります。

### (流動負債)

当第3四半期連結会計期間末における流動負債の残高は1,890百万円(同2,315百万円)となり、424百万円減少いたしました。主な要因は、支払手形及び買掛金が273百万円、未払法人税等が128百万円、賞与引当金が50百万円減少したためであります。

### (固定負債)

当第3四半期連結会計期間末における固定負債の残高は254百万円(同319百万円)となり、65百万円減少いたしました。主な要因は、会計基準等の改正に伴う会計方針の変更により退職給付に係る負債が72百万円減少したこと等によるものであります。

### (純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産の残高は4,186百万円(同3,835百万円)となり、351百万円増加いたしました。主な要因は、利益剰余金が利益処分による配当により145百万円減少した一方で、四半期純利益390百万円の獲得による増加や会計基準等の改正に伴う会計方針の変更により46百万円増加したこと等により291百万円増加したこと、その他有価証券評価差額金が保有株式の値上がりにより40百万円増加したこと等によるものであります。

## (3) 生産、仕入及び販売の実績

当社グループは、専ら、ノベルティ・プレミアムグッズに代表されるセールスプロモーショングッズを企画・販売する単一事業分野において営業活動を行い、単一セグメントであるため、セグメント別の情報は記載しておりません。

## 生産実績

当社グループの販売するセールスプロモーショングッズは広範囲かつ多種多様であり、同様の製品であっても仕様が一樣ではなく、またポケットティッシュ以外の受注商品の製作につきましては全て外注先に委託しております。なお、当社グループで販売するポケットティッシュについて、その多くを当社の連結子会社である(株)岐阜クリエイトにおいて生産しております。当第3四半期連結累計期間における、当社グループで生産しているポケットティッシュの生産実績を示すと、次のとおりであります。

品目	生産高(千個)	前年同四半期比 (%)
ポケットティッシュ	103,845	96.0
合計	103,845	96.0

(注) 千個未満は切り捨てております。

## 仕入実績

当社グループでは価格競争力を強化するため、一部の商品について中国より直接購買を行っております。当第3四半期連結累計期間における、当社グループにおける国内での仕入実績及び中国からの仕入実績を示すと、次のとおりであります。

地域	仕入高(千円)	前年同四半期比 (%)
国内仕入	5,361,044	115.5
海外(中国)仕入	602,828	112.3
合計	5,963,872	115.2

(注) 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

## 販売実績

当第3四半期連結累計期間における、当社分類による顧客所属産業分野別に販売状況を示すと、次のとおりであります。

分野	販売高(千円)	前年同四半期比 (%)
衣食住・流通産業分野	5,279,925	136.1
情報・通信産業分野	2,165,342	89.9
金融・保険産業分野	354,408	87.1
その他	407,283	74.2
合計	8,206,959	113.3

(注) 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

### 第3 【提出会社の状況】

#### 1 【株式等の状況】

##### (1) 【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	21,600,000
計	21,600,000

###### 【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成26年12月31日)	提出日現在 発行数(株) (平成27年2月13日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	6,240,000	6,240,000	東京証券取引所 J A S D A Q (スタンダード)	単元株式数100株
計	6,240,000	6,240,000		

##### (2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

##### (5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成26年10月1日～ 平成26年12月31日		6,240,000		450,000		42,000

##### (6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成26年12月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 401,800		
完全議決権株式(その他)	普通株式 5,837,600	58,376	
単元未満株式	普通株式 600		
発行済株式総数	6,240,000		
総株主の議決権		58,376	

(注) 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式80株が含まれております。

【自己株式等】

平成26年12月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式総数 に対する所有 株式数の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社 C D G	大阪市北区梅田二丁目 2 番22号	401,880		401,880	6.44
計		401,880		401,880	6.44

## 2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期累計期間における役員の異動は、次のとおりであります。

### (1) 新任役員

役名	職名	氏名	生年月日	略歴	任期	所有株式数 (株)	就任年月日
常勤 監査役		小口知行	昭和25年 11月19日	昭和48年4月 富士興産株式会社入社 昭和55年11月 スミスクライン・ベックマン株式会社入社 昭和63年10月 マスターフーズ株式会社入社 平成2年6月 ボーデン・ジャパン株式会社入社 経理部長 平成8年6月 サンドビック株式会社入社 カンタル事業部管理部長 平成23年7月 同社 執行役員兼ヒーティングテクノロジーカンパニープレジデント 平成26年8月 当社常勤監査役(現任)	(注)2		平成26年 8月1日

(注) 1. 監査役小口知行は、社外監査役であります。

2. 監査役の任期は、就任の時から平成30年3月期に係る定時株主総会終結の時までであります。

### (2) 役職の異動

新役名及び職名	旧役名及び職名	氏名	異動年月日
専務取締役 (業務本部長)	専務取締役	室井 真澄	平成26年9月1日
常務取締役 (営業本部長)	常務取締役 (企画部長)	小西 聡	平成26年9月1日
取締役 (経営企画部長)	取締役(社外)	太田 彩子	平成26年9月1日
監査役(非常勤)	常勤監査役	曾我部 憲昭	平成26年8月1日



## 第4 【経理の状況】

### 1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号。)に基づいて作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間(平成26年10月1日から平成26年12月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成26年4月1日から平成26年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツにより四半期レビューを受けております。

## 1 【四半期連結財務諸表】

## (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成26年12月31日)
<b>資産の部</b>		
<b>流動資産</b>		
現金及び預金	2,825,534	1,900,957
受取手形及び売掛金	2,343,884	3,152,591
制作支出金	82,917	78,338
製品	7,126	7,820
原材料	16,121	20,750
繰延税金資産	57,646	27,791
その他	122,209	100,428
貸倒引当金	865	893
<b>流動資産合計</b>	<b>5,454,574</b>	<b>5,287,785</b>
<b>固定資産</b>		
有形固定資産	302,845	294,816
無形固定資産	49,027	44,730
<b>投資その他の資産</b>		
投資有価証券	245,768	325,565
繰延税金資産	90,831	46,623
保険積立金	163,712	173,871
敷金及び保証金	128,252	122,681
その他	38,471	38,480
貸倒引当金	3,230	3,230
<b>投資その他の資産合計</b>	<b>663,806</b>	<b>703,992</b>
<b>固定資産合計</b>	<b>1,015,680</b>	<b>1,043,539</b>
<b>資産合計</b>	<b>6,470,254</b>	<b>6,331,324</b>

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成26年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,816,087	1,542,566
未払法人税等	197,026	68,348
賞与引当金	99,000	48,750
その他	203,142	231,007
流動負債合計	2,315,256	1,890,672
固定負債		
退職給付に係る負債	140,215	72,004
役員退職慰労引当金	179,425	182,034
固定負債合計	319,640	254,038
負債合計	2,634,896	2,144,711
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	450,000	450,000
資本剰余金	69,056	69,056
利益剰余金	3,491,236	3,782,703
自己株式	230,569	230,569
株主資本合計	3,779,722	4,071,189
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	58,980	99,684
繰延ヘッジ損益	-	2,268
為替換算調整勘定	4,302	7,688
退職給付に係る調整累計額	7,674	2,770
その他の包括利益累計額合計	55,608	106,871
新株予約権	26	8,552
純資産合計	3,835,357	4,186,613
負債純資産合計	6,470,254	6,331,324

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)
売上高	7,242,644	8,206,959
売上原価	5,254,729	6,043,293
売上総利益	1,987,914	2,163,666
販売費及び一般管理費	1,485,303	1,561,420
営業利益	502,610	602,245
営業外収益		
受取利息	1,804	1,899
受取配当金	2,813	4,478
為替差益	-	6,793
その他	1,692	2,210
営業外収益合計	6,310	15,382
営業外費用		
支払利息	80	129
為替差損	3,586	-
その他	1,339	603
営業外費用合計	5,005	733
経常利益	503,916	616,893
特別利益		
保険解約返戻金	7,636	5,575
特別利益合計	7,636	5,575
税金等調整前四半期純利益	511,552	622,469
法人税、住民税及び事業税	190,301	209,708
法人税等調整額	13,074	21,873
法人税等合計	203,375	231,582
少数株主損益調整前四半期純利益	308,177	390,887
四半期純利益	308,177	390,887

【四半期連結包括利益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	308,177	390,887
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	57,837	40,704
繰延ヘッジ損益	-	2,268
為替換算調整勘定	3,720	3,386
退職給付に係る調整額	-	4,903
その他の包括利益合計	61,558	51,262
四半期包括利益	369,735	442,149
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	369,735	442,149
少数株主に係る四半期包括利益	-	-

【注記事項】

(継続企業の前提に関する事項)

該当事項はありません。

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

該当事項はありません。

(会計方針の変更等)

「退職給付に関する会計基準」(企業会計基準第26号 平成24年5月17日。以下「退職給付会計基準」という。)及び「退職給付に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第25号 平成24年5月17日。以下「退職給付適用指針」という。)を、退職給付会計基準第35項本文及び退職給付適用指針第67項本文に掲げられた定めについて第1四半期連結会計期間より適用し、退職給付債務及び勤務費用の計算方法を見直し、退職給付見込額の期間帰属方法を期間定額基準から給付算定式基準へ変更、割引率の決定方法を割引率決定の基礎となる債券の期間について従業員の平均残存勤務期間に近似した年数を基礎に決定する方法から退職給付の支払見込期間及び支払見込期間ごとの金額を反映した単一の加重平均割引率を使用する方法へ変更いたしました。

退職給付会計基準等の適用については、退職給付会計基準第37項に定める経過的な取扱いに従って、当第3四半期連結累計期間の期首において、退職給付債務及び勤務費用の計算方法の変更に伴う影響額を利益剰余金に加減しております。

この結果、当第3四半期連結累計期間の期首の退職給付に係る負債が72,256千円減少し、利益剰余金が46,532千円増加しております。また、当第3四半期連結累計期間の営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益はそれぞれ2,544千円増加しております。

(四半期連結財務諸表の作成に当たり適用した特有の会計処理)

該当事項はありません。

(四半期連結貸借対照表関係)

四半期連結会計期間末日満期手形

四半期連結会計期間末日満期手形の会計処理については、満期日に決済が行われたものとして処理しております。

なお、当第3四半期連結会計期間末日が金融機関の休日であったため、次の四半期連結会計期間末日満期手形を満期日に決済が行われたものとして処理しております。

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成26年12月31日)
受取手形	-	4,314千円
支払手形	-	136,368千円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)
減価償却費	22,434千円	20,369千円

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年6月27日 定時株主総会	普通株式	146,745	25.0	平成25年3月31日	平成25年6月28日	利益剰余金

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日  
後となるもの

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自 平成26年4月1日 至 平成26年12月31日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成26年6月26日 定時株主総会	普通株式	145,953	25.0	平成26年3月31日	平成26年6月27日	利益剰余金

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日  
後となるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当社グループはセールスプロモーショングッズの企画・販売を行う単一セグメントであるため、記載を省略して  
おります。

(企業結合等関係)

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)
(1) 1株当たり四半期純利益金額	51円66銭	66円95銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(千円)	308,177	390,887
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式に係る四半期純利益金額(千円)	308,177	390,887
普通株式の期中平均株式数(千株)	5,965	5,838
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額		66円69銭
(算定上の基礎)		
普通株式増加数(千株)		23
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要		

(注) 前第3四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

## 2 【その他】

該当事項はありません。



## 第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

平成27年2月9日

株式会社C D G  
取締役会 御中

### 有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 平 野 洋 印

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 池 田 太 洋 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社C D Gの平成26年4月1日から平成27年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間(平成26年10月1日から平成26年12月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成26年4月1日から平成26年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

#### 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

#### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

#### 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社C D G及び連結子会社の平成26年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。